

ひょうご安全の日推進県民大会（県民会議総会）開催結果

- 1 **開催日時** 平成26年11月17日（月）16:00～17:30
- 2 **開催場所** 兵庫県民会館11階パルテホール
- 3 **参加者数** 150人（一般参加者、ひょうご防災特別推進員、県・市町職員含む）
- 4 **内 容**

（1）県民会議総会

ア 総会あいさつ（井戸 敏三 ひょうご安全の日推進県民会議会長（兵庫県知事））

阪神・淡路大震災から20年の節目を迎えるにあたり、ひょうご安全の日推進県民会議の各構成団体が行い組んでこられた防災・減災活動への感謝と、安全・安心に向けた一層の取組み推進を依頼された。

イ 「ひょうご安全の日のつどい」の実施（案）（説明者：県民会議事務局）

平成27年1月17日（土）に兵庫県公館及びHAT神戸で開催されるひょうご安全の日のつどいの実施内容（案）を説明し、満場一致で了承された。

（2）県民大会

ア 「阪神淡路20年—1.17は忘れない—」の取組状況（兵庫県広報専門員）

県民会議が実施する「阪神淡路20年」の取組みを説明するとともに、毎月17日の「減災活動の日」における防災・減災の取組みを呼びかけた。

イ 構成団体等からの「減災活動」の取組報告

①（特非）兵庫県防災士会（大石 伸雄 理事長）

自主防災組織と連携して各地で行う防災ワークショップ・防災訓練の取組状況や県民への防災・減災の啓発活動等について説明された。

②兵庫県立大学防災教育センター・学生災害復興支援団体LAN（井上 方義 環境人間学部3年生）

東日本大震災被災地支援として宮城県南三陸町や福島県南相馬市でのがれき撤去や農水産業の復旧支援活動の状況と、その活動を通じて学んだこと等について説明された。

③（公社）兵庫県看護協会（中野 則子 会長）

阪神・淡路大震災を契機に始まった地域の健康相談・訪問活動「まちの保健室事業」や、大規模災害時に被災地と連携して取り組む看護活動「災害支援ナース」の東日本大震災被災地での取組状況について説明された。

④兵庫県生活協同組合連合会（三宅 康平 専務理事）

兵庫県と県内協同組合が連携して取り組んでいる阪神淡路20年の取組状況について説明されるとともに、活動を通じて再認識された被災・復興の教訓を発信し続けていくことを表明された。

⑤大阪ガス(株) (梶田 浩 兵庫地区保安統括)

阪神・淡路大震災からの復旧活動と震災の経験から生まれたハード面での防災・減災の仕組みづくりや、次世代を担う子どもたちへの防災教育等の啓発活動について説明された。

⑥神戸市 (広瀬 朋義 神戸市危機管理監・理事)

神戸市が取り組んでいる震災20年の取組み(震災20年継承・発信事業)の概要と取組状況等について説明された。

⑦ (公財) 兵庫県住宅再建共済基金 (大裏 篤 理事長)

阪神・淡路大震災を契機に創設された「共助・助け合い」の仕組みである兵庫県住宅再建共済制度(フェニックス共済)の概要、普及啓発の取組みを説明されるとともに加入促進への協力を呼びかけられた。

ウ メッセージ「震災で学んだ経験と教訓を発展させ、あらゆる災害に備える」

(河田 恵昭 人と防災未来センター長)

今後発生が懸念される南海トラフ地震のみならず、あらゆる自然災害に備えるため、震災の経験と教訓を活かし、発展させていくことの重要性を説明された。